

はばプラⅡ 外国語活動・外国語科 「つかむ」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【あいさつ・ウォームアップ】

○あいさつに続くやり取りでは、天気や曜日、日付だけでなく学習段階に合わせ、既習事項を含むやり取りにする。

【「単元の課題」の設定】

○「必要感をもって思いや考えを伝え合う活動」は、以下の点を含むものとする。

- ◆目的・場面・状況がある。
(実際にある場面、想定した場面、ゲーム性のある活動)
- ◆教材や教科書の題材と関連している。
- ◆自分の思いや考えを伝え合っている。
- ◆思いや考えなどを伝え合う「英語」も児童生徒が思考・判断している。
- ◆既習事項を繰り返し使用する活動となっている。

【課題設定の流れの具体例：中学校3年生】

- ① To Our Future Generation (NEW HORIZON3)
- ② ALTは日本で地震が多いが、避難する時の情報がこの町にはないのでとても不安を感じている。
(「目的・場面・状況」の把握)
- ③ 「災害時に安心して外国人が避難できるように、パンフレットを作って説明しよう。」(単元の課題)

※小学校では、教師が実演で示し、内容について児童に問いかけながら、一緒に課題を設定してもよい。

【「つかむ」過程の本時の活動】

○試しの活動は、単元の課題を解決する活動と同じでない場合でも、つながる活動にする。

【試しの活動の具体例：中学校3年生】

<単元の課題>
「ロボットと生活することについてディベートをしよう。」

<試しの活動>
「既習事項を使ってロボットと生活することについて賛成か反対か、ペアで伝え合おう。」
※単元の課題の解決につながる活動

○試しの活動に取り組ませ、単元の課題解決のためには何を学ぶ必要があるか確認させることで見通しをもたせる。

※中学校1年生では、小学校で体験している活動をウォームアップの中に取り入れたり、言語活動に取り組む際に、小学校での学習内容を想起させたりするなど、小中の学びのつながりを意識できるようにする。

基本的な流れ

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- あいさつに続けて、簡単な教師の問いに対し、英語で答えさせる。
- ※小学校では歌やチャンツを行う等、英語を学ぶ意欲をもたせる。

2 単元の課題をつかむ。

- 教材や教科書の題材名や絵等を使って、児童生徒とやり取りしながら類推させ、題材に触れさせる。
- 課題提示型 または 課題発見型 により課題に出会い、「目的・場面・状況」を捉えさせる。

【単元の課題】
〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

3 本時のめあてをつかむ。

- 「試しの活動」として既習事項を使い、単元の課題を解決する活動に取り組むことを確認させる。

【本時のめあて】

- ※「試しの活動」は既習事項が少ない段階では行わない。
- ※外国語活動で、試しの活動を行わない場合は「追究する」過程の学習に進む。

4 本時の活動に取り組む。

- 新出言語材料の必要性に気付けるように単元の課題を解決する活動に取り組ませる。(試しの活動)
- 単元の見通しをもたせる。

5 本時の振り返りをする。

- 言語面と内容面について、本時の学習を振り返らせる。

単位時間の振り返り ※個人

個別最適な学びに関わる学習活動 協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

<ICT活用の視点>
外国語では、課題について、個で考えを持ち、それを他者と英語で伝え合いながら、英語表現を磨き、考えを深める言語活動が連続します。ICTを活用し、言語活動を効率的に進めるとともに、目的・場面・状況を実生活に近づけること(思いや考えをもつために調べる、コミュニケーションのためにつなぐなど)がポイントとなります。

【個に応じた学習】
○単元の課題をつかみ、既習表現を使って、自分の考えを端末に整理する。
→単元の課題解決に向けて、現在の自分の考えや、英語力を把握できる。

【学校の壁を越えた学習】
※目的・場面・状況の設定
○端末を活用し、単元末の課題(言語活動)の目的・場面・状況を把握する。
→言語活動における目的・場面・状況を本物に近づけることで、児童生徒は必要感をもって伝え合うことができる。

【発表や話し合い】
○単元の課題解決に向けて必要だと感じる学習内容を端末で共有する。
→単元で学習する内容について見通しをもつことができる。

【学習データの蓄積】
○試しの活動におけるパフォーマンスを記録する。
→単元末の課題解決におけるパフォーマンスと比較することで学習成果を実感することができる。

【学習データの蓄積】
○CAN-DOリストに沿って、振り返りを記録する。
○振り返りを教師用端末に送信する。
→単元末に自己の学びの成長を確認する準備になる。

<例>
・端末で小学校で取り組んだパフォーマンスを見るなど。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

あいさつ・ウォームアップに必要な資料等を提示する。

単元の課題における目的、場面、状況を把握できるよう、資料等を提示する。

<例>
・写真や動画を示す。
・教室外(海外、他校など)とつなぐなど。

・大型提示装置で学習計画(めあて等含む)等を提示する。

・大型提示装置で本時の学習に関連する資料等を提示する。

・大型提示装置で個人の振り返りの言葉の映し出し、及び紹介する。

はばプラⅡ 外国語活動・外国語科 「追究する」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【帯活動・Small Talk】

帯活動【中学校】
 ○既習事項を繰り返し使用し、生徒の思いや考えが反映される言語活動にする。

Small Talk【小学校高学年】 P144を参照
 ○5年生では教師と児童中心のやり取り。
 ○6年生では教師と児童のやり取りから、児童同士のやり取りにつなげる。児童が言えなかったことをクラス全体で共有し、既習事項に結び付けて指導する。

基本的な流れ

- 1 あいさつ・ウォームアップをする。
- 2 Small Talk・帯活動を行う。(外国語科)
 【中学校】
 → 帯活動に取り組みさせる。
 【小学校高学年】
 → Small Talk (2時間に1回程度)に取り組みさせる。
- 3 本時のめあてをつかむ。
 ● 教師が本時の学習内容につながる実演等を行う。

【本時のめあて】

4 本時の活動に取り組む。 【小学校】

- <外国語活動>
- A 新出言語材料の音声十分に慣れ親しませる。(聞く、話す)
 - B 音声に慣れ親しんだ新出言語材料を活用する言語活動に取り組ませる。
 - B/C 体験を通じて理解を深めさせる。

- <外国語科> 【高学年】
- A 外国語活動の取組に加え、必要に応じて、新出言語材料を理解させたり、練習させたりする。
 - A 音声十分に慣れ親しんだ新出言語材料を読んだり、書いたりさせる。

- <外国語科>
- A 新出言語材料を理解させたり、練習させたりする。
 - B 新出言語材料を習得するための言語活動に取り組ませる。
 - C 教科書本文を理解するための言語活動に取り組ませる。

【新出言語材料、教科書、教材】

○リズムやチャンツ、教材の音声等を使って「聞くこと」から「話すこと」につなげる。
 ○言語活動は相手意識と伝え合う内容がある活動となるようにする。

○やり取りのポイントを示すなど、他者に配慮する意識をもたせる。
 ○「書くこと」においては、丁寧に書くなど、相手意識をもって、書き写させる。

○新出言語材料を理解させる際、文意の中で働きを捉えさせる。
 ○教科書の本文理解においては、自分の考えを伝え合う言語活動につなげる。

【振り返り】

- 言語面の振り返りは、めあてに沿って言えたことや、言いたかったが言えなかったことなど学習した知識及び技能に関するもの。
- 内容面は伝え合った内容について、分かったことや感じたこと等。

5 本時の振り返りをする。

- 言語面と内容面について、本時の学習を振り返らせる。

単位時間の振り返り ※個人

個別最適な学びに関する学習活動

協働的な学びに関する学習活動

1人1台端末の活用

★帯活動【個に応じた学習】【表現】
 ○既習事項を確認する。
 →個人の状況に応じて、課題解決につながる既習表現を継続的に確認できる。

<例>
 基本文や既習表現をドリル、新出単語テストなど。

★Small Talk【協働学習】
 ○Small Talkで個人で言えなかったことなどを全体で共有し解決する。
 →既習表現を駆使して、言い換える力を身に付けられる。

<例> Small Talkで言えなかったことを端末で提出、共通なものを全員で英語化するなど

【個に応じた学習(言語面)】
 ○単元末の課題解決に向けて、必要な言語材料を習得する。
 →新出言語材料に係る知識を整理し、技能を習得することができる。

<例>
 文法知識の整理のため、与えられたドリル的な課題への取組、本文に係るQ&Aなど。

【個に応じた学習(内容面)】
 【調査活動】【思考を深める学習①】
 ○単元末の課題解決に向けて、本時のめあてに沿って思いや考えをもったり、膨らませたりする。
 →社会的な問題などを題材とした時、題材について知識がなく、思いや考えが浮かばないことがあるが、調べたり、考えをまとめたりすることで思いや考えを膨らませることができる。

※調査活動の際、なるべく英語を使って調査活動ができるよう工夫する。
 <例>
 英語の動画、英文の記事検索

【提出、比較】
 ○個人でまとめた英文を提出し、お互いに比較する。
 →自分では気付かなかった多様な意見や考え、忘れていた既習表現の活用に触れることができる。

【思考を深める学習②】
 【学習データの蓄積】
 ○自らの意見、考えを言語面、内容面で深め、校正する。

※「つかむ過程」を参照

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

・Small Talk等で話題の中心となるテーマや画像等を提示する。

・大型提示装置で学習計画(めあて等含む)等を提示する。

・大型提示装置で本時の学習に関連する資料等を提示する。

※新出言語材料の学習においては、単元の課題との関連を児童・生徒が意識できるようにする。

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【教師の実演】

○小学校では教師が実演することで、目的・場面・状況をつかみやすくなる。
○中学校では、言語活動における英語表現も思考、判断させるため、教師は実演等で単元の課題を解決した姿を示し過ぎないようにする。

【単元の課題を解決する言語活動】

<外国語科（小学校）>
○外国語活動のポイントに加え、これまで書きためてきた英文を清書する。これを発表等に活用できる。
【具体例：小学校6年】
行きたい国を紹介する活動で、紹介する国の写真の下に「I want to go to China. I want to see pandas.」など書いたポスターを作成する。
※「書くこと」においては丁寧に書くことが他者への配慮であることを指導する。

【中間評価】

○児童生徒が言いたかったが言えなかった表現について指導し、全体でも共有する。

【単元全体の振り返り】

○外国語活動では、言語面としてできたことや、言えたことなどに視点をあてるようにする。
○中学校と小学校高学年では、言語面として単元を通じて児童生徒が何ができるようになったか自覚できるようにする。
<振り返りの視点の例>
◆英語で何が言えたか
◆どんなやり取りができるようになったか
◆コミュニケーション等によって発見したこと
◆深められたこと

基本的な流れ

- 1 あいさつ・ウォームアップをする。
- 2 Small Talk・帯活動を行う。（外国語科）
- 3 本時のめあてをつかむ。
 - これまでの学習内容を想起させる。
 - 教師が実演する等、単元の課題を解決した姿を示し、何をどのように行えばいいのか（できればいいのか）をつかませる。

【本時のめあて】

- 4 単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
 - 既習事項も含め、これまでの学習において書きためた英文や、使うことができるようになった表現を見直すなどしてこれまでの学びを踏まえさせる。
 - 単元の課題を解決する言語活動に取り組ませる。その際、「目的・場面・状況」を再確認させる。
 - 中間評価を行い、他の児童生徒のよい例を示し、よかった点を児童生徒に問いかけ、全体で共有させる。
 - 取組を見直した後、再び言語活動に取り組ませる。

- 5 単元全体の振り返りをする。

単元全体の振り返り

- 単元全体を通して、言語面と内容面で振り返らせる。

個別最適な学びに関する学習活動

協働的な学びに関する学習活動

1人1台端末の活用

※「追究する過程」を参照

【個に応じた学習】

※課題解決(言語活動)
○課題の目的・場面・状況に沿って蓄積した学習データを活用し、自らの思いや考えを英語でまとめる。

<例>
ディベート、パンフレット作りなど

【学校の壁を越えた学習】

※課題解決(言語活動)
○1人1人が教室外の相手と英語でやり取りを行ったり、発表を行ったりして、課題解決を行う。

<例>
学校間、海外とのやり取りなど

【協働での意見整理】

○個人の思いや考えを英語で伝え合いながら、ペアやグループで議論したり、まとめたりする。
→英語を使って、議論したりまとめたりする過程の中でコミュニケーション力を養うことができる。

【発表・話し合い】

○教室外の相手とつながり、単元の課題解決を行う中で思ったことや生じた考えを端末上で共有し、やり取りしたり、発表したりする。
→教室内の友人と英語でコミュニケーションを行いながら、思いや考えをさらに深める言語活動ができる。

※「つかむ過程」を参照

【比較】

○試しの活動における自分のパフォーマンスを比較する。
→本単元でできるようになったことを実感するとともに、単元全体の学習を振り返ることができる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

・これまでの学習を想起させるための資料等を提示する。

○単元の課題解決に必要な資料等を提示する。

※言語活動は学習段階に応じた技能が統合された活動となるように設定し、それぞれの技能をバランスよく育成する。